

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1～4年集中	1～4	1	選択
担当教員			
佐藤 健司			
添付ファイル			

講義概要	海外の提携校を1週間程度の期間で訪問し、現地の学生と共に、あらかじめ設定された課題に集中的に取り組む、成果を共同で発表する。PBLとはProblem-based Learning、もしくはProject-based Learningの略である。参加者は自ら問題を発見し、問題解決の方法・手段を考え、グループ内で討論し、結果を発表する。ここでは提携校の学生とチームを組んで、このPBL活動を行う。討論や発表は共通の言語となる英語で行う。訪問期間中に現地の歴史や文化に触れる視察旅行も行われる。
授業計画	<p>国際PBL研修 研修先：台湾、中国、韓国などの海外提携大学 研修期間（時期）9月・3月に両月とも約1週間開講されるが、どちらかを受講すれば良い。 ただし、事前研修を受ける必要あり。 低学年向けの「一般PBL」は、異文化の理解、英語によるコミュニケーション能力の向上を目標とする。 高学年向けの「特色PBL」は、一般PBLでの目標に加え、やや専門的な分野における問題解決の方法をさぐるものとなる。 日程の概略は下記ようになる。</p> <p>第1日 出発、先方の寄宿舎等に宿泊</p> <p>第2日 午前・午後 PBL活動 グループにて問題発見・調査夜、寄宿舎等に宿泊</p> <p>第3日 午前・午後 PBL活動 議論の深度化 夜、寄宿舎等に宿泊</p> <p>第4日 視察旅行、夜、寄宿舎等に宿泊</p> <p>第5日 午前 PBL活動 発表準備・パワーポイント作成 午後 発表・講評会 夜、寄宿舎等に宿泊</p> <p>第6日 帰国</p>
授業形態	講義と実地体験学習 アクティブラーニング：①:4回, ②:4回, ③:4回, ④:4回, ⑤:4回, ⑥:4回
達成目標	海外提携校の学生との交流を通じて、異文化の理解、外国語によるコミュニケーション能力と技術力を習得する。
評価方法・フィードバック	本学での事前研究と現地での活動状況、帰国後の報告会参加等レポートの提出により、合格、不合格の評価をする。原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内やWEB等を通じて行うが、具体的な方法・タイミングなどは指導教員より都度伝える。
評価基準	合格：達成目標をほぼ達成している 不合格：達成目標を達成していない
教科書・参考書	教科書・参考書：なし
履修条件	なし。 ただし、渡航先に応じて、「韓国語1」または「中国語1」を履修していることが望ましい。
履修上の注意	(1) 学内で事前の研修があれば出席すること (2) 履修登録者の数によっては、履修制限や休講もありうる
準備学習と課題の内容	事前に現地の文化を調べておくこと。毎回の予習復習時間は平均して1.5時間程度だが、開講スケジュールなどによって異なることから、必要に応じて指導教員より都度伝える。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:30%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:15%, 態度:15%, 技能・表現:10%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	